

家庭教育支援を行う人のための

「親学プログラム」について

近年、都市化や核家族化、少子化の進展、高度情報化など急激な社会の変化を背景に、家庭の教育力の低下が懸念されており、本来は私的な領域である家庭教育に関して、行政が支援するとともに、社会全体で家庭教育を支援することが求められています。

島根県立東部・西部社会教育研修センターでは、平成22年度から家庭教育支援のための「親学プログラム」の普及・開発に努めてまいりました。本プログラムは、家庭教育支援を行う人が、主に乳幼児から中学生をもつ親（保護者）を対象に、親としての役割や子どもとのかかわり方の気づきを促すために活用する学習プログラムです。

本プログラムを活用し、親同士が語り合いながら学習することで、気づきによる親自身の学びに加え、交流を図ることによる親同士の関係づくりや地域全体で家庭教育を支援するネットワークづくりにも役立つと考えています。

県内各地の保育所、幼稚園、小・中学校や公民館等社会教育施設、子育て支援センター等の様々な場や機会でも本プログラムを活用した学習が行われ、社会全体で家庭教育支援の気運が醸成されることを期待しています。

おわりに、本プログラムの普及・開発にあたり、ご指導、ご支援を賜りました関係機関の皆様方に心からお礼申し上げます。

平成24年3月

島根県立東部社会教育研修センター 所長 下岡 博司

島根県立西部社会教育研修センター 所長 安野 光城